守口文化財

ガイドマップ

守口市教育委員会

1 佐太天神宮
Satatenjingu (Shrine)

菅原道真が太宰府へ流される途中、舟を繋いだ処で、菅公死後の天暦年間（947～57）に祠が建てられたのが創建とされています。現在の社殿は領主永井尚政・尚庸父子や豪商淀屋辰五郎等の保護のもとに整備され、寛永17年（1640）建立の本殿、慶安元年（1648）の石門・拝殿・弊殿等、江戸初期の建物が残されており、平成15年に本殿・弊殿・拝殿が大阪府の有形文化財に指定されました。また当社には、文安3年（1446）の箱書きのある紙本著色天神縁起絵巻6巻のほか、狩野探幽の絹本著色十一面観音画像をはじめ、江戸時代初期の美術品が数多く奉納されています。大和守安定の作刀である金梨子地塗糸巻太刀拵は、寛文10年（1670）の銘があり、大阪府指定有形文化財となっています。

佐太天神宮参道

本殿

金梨子地塗糸巻太刀拵

2 来迎寺
Raikoji (Temple)

大念仏宗中興法明上人の弟子、実尊誠阿上人が、貞和3年（1347）に下仁和寺庄守口村に一宇を建立したのが始まりとされています。住職が代わるたびに本尊を移し（332年間に26回）、延宝6年（1678）に現在の寺地を寄進され定堂して発展しました。享保3年（1718）再建の客殿及び玄関、明和2年（1765）再建の庫裏、安永4年（1775）の長屋門、江戸時代後期の表門（四脚門）・土塀などを残しています。また、当寺に伝わる絹本著色八幡曼荼羅図は国の重要文化財に指定されており、絹地に彩色で男山八幡宮の七社の神像を巧みに描いた鎌倉時代の優品です。寺庭にある石造十三重塔は嘉元2年（1304）「寺講衆四十余人」の銘文があり、鎌倉時代の石塔として大阪府指定有形文化財となっています。

来迎寺境内

絹本著色八幡曼荼羅図

石造十三重塔

3 式内 津嶋部神社
Sikinai Tsushimabe-Jinja (Shrine)

津嶋部神社は、高瀬神社とともに「延喜式神名帳」に記された式内社で、津嶋女大神、素戔嗚尊、菅原道真を祭神としています。「津嶋部」は「津嶋女」から転じたものと考えられています。元和元年（1615）大坂夏の陣の兵火で社殿が炎上したと伝えられ、その後再興が行われましたが、元禄年間（1688～1704）再建の社殿は、明治15年（1882）に再建された現在の社殿と同規模で、当時の隆盛がうかがえます。当社に残る慶長13年（1608）の銘をもつ芻谷石製の石造狛犬は、府下で最古の紀年銘をもつ狛犬で、平成12年に市有形文化財に指定しました。また境内には燈籠・水船など多数の石造物が残されています。

式内津嶋部神社境内

芻谷石製狛犬

4 菅相寺
Kanshoji (Temple)

平安時代中期の創建と考えられ、かつては境内も広大であったらしく七坊あった内の東坊の後身といい、佐太天神宮の宮寺で奥の院といわれていました。当初は真言宗でしたが、正保元年（1644）に永井尚政が萬安禅師を招いて曹洞宗に改宗し、現在は宇治興聖寺の末寺となっています。本堂は慶安4年（1651）永井家が再建したもので、江戸時代には観音堂とよばれ、小規模ながら市内の仏堂建築としては最古のものとして貴重です。また、境内に残る石製露盤（花崗岩製）も室町時代の遺品として極めて貴重なものです。

菅相寺山門

菅相寺石製露盤

5 佐太陣屋跡
Satajinya-Ato (base campremains)

旧大庭一番村の領主永井尚庸は、陣屋を置いていた交野郡渚村（枚方市）が幕領となったため、貞享4年（1687）に京・大坂間の交通及び軍事上の要地で、佐太天神宮のある佐太の地に陣屋を移しました。これが佐太陣屋で、永井氏の蔵屋敷の役目も兼ね、年貢米納入や特産物集積、大坂での取引や藩の金融業務など、永井氏の台所の役割を担っていました。現地は佐太老人センターになっていましたが、来迎寺との境界に石垣が残っています。

発掘調査で見つかった表門階段（左）と溝の石橋（右）

6 妙楽寺
Myorakuji (Temple)

延宝年間（1673～81）の洪水で本堂や庫裏を流失しましたが、天和年間（1681～84）浄土宗融通派の僧一空知三唱阿上人が再建しました。もとは天台宗であったので妙楽の号を称したと伝えられています。境内には、樹齢約300年、樹高約3.5m、幹回りは20～40cm前後、枝張東西約4.8m南北約7mの「オオムラサキ」、俗称「ヒラドツツジ」があり、昭和58年に大阪府の天然記念物に指定されました。

妙楽寺のツツジ

7 大念寺
Dainenji (Temple)

延宝2年（1674）の創建と伝えられ、元は大念仏宗来迎寺末でしたが、明治5年（1872）に浄土宗となりました。当寺にある石造地蔵菩薩立像は享禄5年（1532）の和泉砂岩製で本市の貴重な石造美術品といえます。絹本著色阿弥陀三尊来迎図は室町時代初期頃のものとされています。

石造地蔵菩薩立像

絹本著色
阿弥陀三尊来迎図

8 もりぐち歴史館旧中西家住宅
Moriguchi Historical House (The Old Nakanishi Residence)

中西家は江戸時代初期に尾張徳川家と姻戚関係を持ったことから、後に代々尾張藩大坂天満蔵屋敷奉行などの要職に就いてきた名家です。

現在の主屋は寛政5年（1793）に建立されており、府下に残る建物としては比較的新しいものですが、棟札及び銘文に記された旧建物規模からみて、弘治元年（1555）の創建以降大差のない規模・構成を踏襲してきたことがうかがえます。また大門も棟札及び銘文より、安永5年（1776）に再建されたことが知られ、屋敷地を濠で囲んでいたこととあいまって、中世土豪をしのばせる貴重な建造物です。

平成10年に市有形文化財に指定し、修復・保存工事を行い、現在はもりぐち歴史館「旧中西家住宅」として公開しています。

旧中西家住宅（主屋）

旧中西家住宅（主屋土間の大梁）

9 藤田天社宮
Todatenshagu (Shrine)

藤田公園の南隣に鎮座しています。由来書きによると、藤田天社宮は平安時代の土御門神道の主神泰山府君を主神とし、深沙大将・陰陽道の祖安倍晴明も祀っています。

かつて藤田の地には主神泰山府君の本地垂迹神、深沙大将を祀った祠がありましたが、明治の神仏分離で祀られなくなっていました。現在の祠は、地元住民の熱意によって昭和24年に再建されたものです。

藤田天社宮

10 弥治右衛門石碑
Yajiemon Stone Monument

大久保地区一帯は低地で、特に藤田村は水はけが悪く、稲の水腐れ被害が毎年のようにおこっていました。慶安元年（1648）藤田村の庄屋小泉弥治右衛門は、村民の被害を取り除こうと、幕府の許可なしに排水樋を造ったとされています。このため幕府を無視したとして、翌年3月22日に弥治右衛門一家は処刑され、家財・田畑も没収になりました。村民たちは村のために犠牲になった弥治右衛門を後世に伝えるべく、俗名を刻んだ道標をつくり墓碑がわりとしました。また昭和7年（1932）には記念碑も建立されました。

弥治右衛門石碑

弥治右衛門記念碑

弥治右衛門樋跡

15 八坂瓊神社
Yasakanijinja (Shrine)

祭神は素戔嗚尊（牛頭天王）で、京都祇園の八坂神社から勧進したとされ、旧大庭七番村（現大庭町）の氏神として祀られたとされます。社殿は、慶長年間の「大坂の陣」で焼失し、元和9年（1623）に再建されました。現在の社殿は明治11年（1878）造営されたものです。社前の燈籠には寛文3年（1663）、鳥居には享保8年（1723）癸卯八月二十五日河州茨田郡七番村氏子中の銘があります。牛頭天王社は、明治維新後に八坂神社と改称されましたが、当社の「八坂瓊」の「瓊」は「赤い色の玉」の意で、特に御神徳を讃えたものとされています。

八坂瓊神社

16 正覺寺
Shokakuji (Temple)

もとは大念仏宗来迎寺の末寺でしたが、明治5年（1872）に浄土宗となりました。古くには大伽藍があったと伝えられ、延宝年間（1673～81）に浄土宗の僧が住み、享保元年（1716）に最誉圓察が再建中興したとされています。

境内にある石造板碑十三仏は大変めずらしいもので、慶長15年（1610）10月15日の銘があります。また、室町時代の石造地蔵菩薩が多数保存されています。

正覺寺山門

石造板碑十三仏（右）と石仏

17 正迎寺
Shokoji (Temple)

創建は観応元年（1350）とされ、那須又五郎為成が、当時小高瀬庄大枝に滞在していた存覚上人に帰依して善正と称し、当寺を開いたと伝えられています。当寺には、伝存覚上人筆十字名号「帰命盡十方無碍光如来」が伝存されており、紙本に筆勢鋭く大書され、紙はやや黒ずみ存覚筆の伝えのとおり室町時代初期頃と推定されています。他にも伝蓮如筆六字名号「南無阿弥陀仏」が伝存されています。

伝存覚上人筆十字名号

正迎寺山門

18 専教寺
Senkyoji (Temple)

嶋名善祐坊の開基でもとは泉教寺と称し、宝永元年（1704）に今の専教寺という寺号に改められました。この寺に伝わる蓮如上人画像は、墨衣の御影と考えられ、絹地に両手で数珠を持った座像が描かれています。絹地はやや粗目の、室町時代後期によく使われたいわゆる足利絹を用い、のびやかな描線で温顔のなかにも厳しさを秘めた蓮如上人の像を描いており、蓮如上人画像としては比較的早い時期の作品として、貴重な資料です。

専教寺山門

蓮如上人画像

11 守口市郷土資料展示室
Local Cultural Properties Exhibition Room

大日の守口市立図書館1階に、守口市郷土資料展示室をあらたに開設しました。郷土資料展示室では、様々な実物資料や写真パネルを使って、守口市の地形・地質や、原始時代から近世・近代までの守口の歴史をたどれるよう展示をしています。

八雲遺跡の弥生時代住居跡から出土した弥生土器や石製装飾品、梶2号墳出土の形象埴輪や円筒埴輪、高瀬寺跡出土の蓮華文軒丸瓦、八雲遺跡の人面墨書土器など、守口市の貴重な文化遺産を間近で見学することができます。

守口市郷土資料展示室（入口から右手を見る）

12 西向寺
Saikoji (Temple)

臺友山西向寺と号し、現在は浄土宗の寺院ですが、もとは大念仏宗来迎寺の末寺でした。大永4年（1524）宗源の創建とされますが、明らかではありません。本堂は近年建て替わりました。

本尊の阿弥陀如来立像は江戸初期の優美なもので、元は来迎寺の前立であったと伝えられています。

西向寺阿弥陀如来立像

13 白山神社
Shirayamajinja (Shrine)

旧の三番村・四番村・六番村の氏神で、もとは現在地より北西に約300m離れた御旅所の位置にあったといわれ、今その地には「藤之森」の石碑が建てられています。

現在の本殿は、覆屋の中に一間社流れ造の白山大権現・春日大明神の二殿が左右に並置されています。建立時期は明らかではありませんが、江戸時代中期の元禄から享保の間と見られています。鳥居には「正徳五年 江戸田井三右ヱ門秀弘 松屋町石大工仁兵衛」（正徳五年は1715年）の銘があります。

白山神社社殿

藤之森碑

14 教應寺
Kyooji (Temple)

高林山教應寺と号し、現在は浄土真宗本願寺派の寺院です。創建については明らかではありませんが、本尊の阿弥陀如来立像からみて、江戸時代前半の建立かと思われます。

山門横の釣鐘は明治時代に東三国の大願寺から買い取ったものですが、宝暦7年（1757）の銘がある由緒深いものです。

教應寺の鐘楼（左）と山門（右）

19 光明寺（八雲）
Komyoji (Temple)

真言宗御室派仁和寺の末寺で、大同元年（806）空海（弘法大師）の開基と伝えられ、もとは八幡宮寺とも称し、八雲神社の宮寺でした。本尊の十一面観音立像は、守口市内に残る最古の仏像で、国の重要文化財に指定されています。右手を下げ、左手を上げて蓮華瓶を持つ、長谷式の十一面観音立像で、樟の一木造、総高は112.7cmあります。両手先や持物・宝冠・台座などは江戸時代の後補ですが、像の主体部は当初の面影をとどめ、藤原時代（10世紀）の彫像として、守口市を代表する文化財です。裏の墨地には、市内で最も古い康永3年（1344）と刻まれた石塔婆があります。

光明寺本堂

木造十一面観音立像

20 八雲神社・八雲神社祭礼山車
Yagumojinja (Shrine)

八雲神社は旧の八番村・北十番村・下島村・南十番村の下番四ヶ村の氏神です。本殿は三間社流れ造で、向拝の中央柱間には虹梁を通さないという、北河内では珍しい形式を持ったものです。

令和3年（2021）の改築の際、「文政五龍集壬午九月十一日上棟」（文政五年は1822年）の棟札が発見され、この時に現在の三間社形式にしたものと思われます。

八雲神社の秋祭りは、旧の八番・北十番・南十番・下島の村から1台ずつと新たに八雲中町から1台計5台の山車が村中を練り込みながら争って宮入する様子は壮絶であり、貴重な民俗文化財です。

八雲神社社殿（令和の改築前）

八雲神社祭礼山車

21 京街道道標
Kyokaido Michishirube (Stone Signpost)

元は淀川堤上の七番村に折れる所（守口浄水場の上）にありました。現在は八雲小学校校庭に移設されています。

「左大阪道」道標

22 五箇樋跡碑・御野立所碑
Gokahiato Stone Monument
Onodachisho Stone Monument

大正天皇が皇太子だった明治43年（1910）に、架橋大演習をご覧になった場所で、大正13年（1924）に「御野立所」碑が建てられました。

五箇樋跡碑は、守口・小高瀬・寺方・橋波・稗島の五ヶ庄が、淀川から飲料水を引いた樋の記念碑で、淀川堤防下にありましたが、御野立所碑の隣に移設されました。

五箇樋跡碑（左）と御野立所碑（右）

23 一里塚跡・上の見附
Ichiriduka-Ato (remnants)

一里塚は、二代将軍徳川秀忠が五街道を整備した時、一里（約4km）ごとに街道の両側に土を盛って里程の目標にしたもので、多くは榎・松の木が植えられていました。浜町二丁目にある京街道の一里塚跡には、今は記念碑が建てられています。一里塚付近は守口宿の「上の見附」（宿場の江戸側の入り口）にあたり、大名が通過したり宿泊する時は、庄屋などの宿役人や村役人が、麻上下などを着用して、この一里塚まで送迎しました。一里塚跡の南130mには瓶橋の橋柱があります。

一里塚跡

瓶橋の橋柱

24 盛泉寺
Josenji (Temple)

盛泉寺は東本願寺の末寺で、教如上人を開基として慶長11年（1606）に創建されたとされ、西御坊難宗寺に対して東御坊、東の御堂さんと呼ばれています。

本堂は慶長20年（1615）の兵火により焼失しましたが、その後、寛永年間（1624～44）に再建され、現在の本堂は天保6年（1835）再建のものです。入母屋造本瓦葺で、桁行・梁行とも五間で、周りに一間の庇をめぐらせています。四脚門・庫裏・書院・鐘楼・太鼓楼もこの時のものとされます。本尊は木造寄木造の阿弥陀如来立像で、室町時代末期の作とみられます。

明治天皇の大阪行幸の際、当寺は内侍所の奉安所となり、屏重門前には「史蹟 内侍所奉安所阯」の石碑があります。

盛泉寺本堂

屏重門と内侍所奉安所阯碑

25 難宗寺
Nanshuji (Temple)

文明7年（1475）吉崎を退出し、枚方市出口に光善寺を創建した蓮如上人が、文明9年（1477）に創立した守口御坊が始まりと伝えられています。慶長16年（1611）には本願寺掛所に昇格し、西御坊と呼ばれるようになりました。

元和元年（1615）の兵火で焼失し、寛永13年（1636）再建されましたが、その後もたびたびの風水害など朽廃したため、石清水八幡宮護国寺仮堂に使われていた古材を再利用して、文化7年（1810）に再建されたのが現在の本堂です。

境内には樹齢約500年、木の高さ約25m、直径約1.5m、枝張約15mの大イチョウがあり、秋の落葉の頃は、本堂前が黄色の落葉で埋め尽くされます。昭和50年に大阪府の天然記念物に指定されました。

難宗寺本堂

難宗寺のイチョウ

29 清澤寺
Seitakuji (Temple)

浄土真宗東本願寺の末寺で、蓮如上人の第十男第23番目の子息実悟上人が、永禄年間（1558～70）の初めに当地方を教化中に当寺の荒廃を聞き、これを再興して土居坊と称し、のち上人の姓「清澤」を採って清澤寺と改称されました。当寺の宝物のなかには、実悟上人の肖像画が上質の絹に描かれており、絵絹の描法からして江戸時代の初期頃の作品と推定され、数少ない実悟上人の画像として貴重な資料です。また西方日吉町2丁目の交差点には「實悟僧都茶毘所舊址」碑があります。

清澤寺本堂

實悟僧都茶毘所舊址碑

30 守居神社
Morijinja (Shrine)

社記によると延喜18年（918）淀川洪水の時、西南石碾の渕で「我天道神也、我を祀れと振鈴の声でお告げがあった」ので、「土を居いて」お祀りしたのが始まりと伝えられ、祭神は素戔嗚尊・別雷命と記されています。社名は守口と土居の各一文字を用いて「守居」としたとされています。現本殿は昭和16年造営のもので、現本殿の左奥にある稲荷社が守居神社の旧本殿になります。当社には、昭和56年に大阪府指定有形文化財となった守居神社刀があります。この刀は茎（中子）に「備中守橘康廣」の銘があり、刀匠の近江石堂派の支派で、大阪石堂派の祖となった康廣の作品です。また宝永7年（1710）の銘をもつ瓦製狛犬（一対）が奉納されており、府下陶磁・瓦製の狛犬としては最古のもので、平成12年に市の有形文化財に指定しました。

守居神社本殿

守居神社稲荷社

守居神社刀

瓦製狛犬一対

31 高瀬寺
Takaseji (Temple)

高瀬寺は浄土宗高瀬山高瀬寺と号し、現在は馬場1丁目にありますが、かつては馬場3丁目にあり、現在地に移ってきました。もとは釈迦寺とも号し、室町時代に建立されたものと考えられています。

境内にある宝篋印塔の台座には「高瀬寺」と刻まれたものが残されています。

高瀬山高瀬寺山門

32 高瀬川跡
Takasegawa-Ato

高瀬川は古歌にもたびたび詠われており、平安時代には「高瀬の淀」、江戸時代には「守口川」とも呼ばれていました。

この高瀬川には、奈良時代の高僧行基がかけた高瀬橋の遺物と考えられる橋杭の石柱が馬場町で出土したことから、高瀬川は相当大きな川で、かつては淀川の本流であったと伝えられています。

高瀬川跡の石碑

26 守口宿本陣跡
Moriguchi-Shuku Honjin-Ato

本陣とは、江戸時代の全国の宿場に設けられた、大名・幕府役人・勅使等の宿泊のための屋敷のことです。守口宿本陣があったのは竜田通一丁目付近で、ここは現在も道路幅が広くなっています。守口宿の街道幅は2間半（約4.6m）と定められていましたが、ここは15m余もあり、この場所で人や荷物の継立が行われたため、道幅が広くなっているのです。

竜田通（西から東を望む。右手奥は難宗寺）

27 大塩平八郎ゆかりの書院跡
Oshio Heihachiro Cottage Remnants

近世守口町の豪農白井家の当主孝右衛門は、大塩の私塾洗心洞の有力門人で、経済的支援も行っていました。天保年間にききんが続き、大坂市中にも犠牲者が続出しましたが、大坂町奉行所はなんら対策を立てず、商人もその機会に利益を得ようとしました。東町奉行所元与力の大塩平八郎は、幕府や商人に天誅を加えて窮民を救うべく、門下の与力や同心、近在の富農層達と謀って挙兵しました。これが天保8年（1837）の「大塩の乱」です。この書院跡は歴史上の人物にゆかりの場所といえます。

かつての書院（現存せず）

大塩書院の記念碑と説明板

28 文禄堤・京街道・守口宿
Bunroku Zutsumi, Kyokaido, Moriguchi-Shuku

文禄堤は、豊臣秀吉が文禄5年（1596）に、毛利輝元・小早川隆景・吉川広家の三家に命じて築かせた淀川左岸の堤防で、堤防上は京都大坂間の最短陸路として、京街道となりました。文禄堤は総延長約27kmとされていますが、度重なる淀川の改修や開発工事等で堤の多くは姿を消しており、守口でのみ面影をしのぶことができる貴重な文化財です。

「五海道分間延絵図」守口宿

京街道守口宿（橋本好祐撮影）

徳永家住宅

来迎坂

来迎坂上の道標

33 式内 高瀬神社
Shikinai takase-jinja (Shrine)

高瀬神社は、平安時代の『延喜式神名帳』に、茨田郡五座の一つとして記載されている式内社で、守口市内屈指の古社です。社伝によると、祭神は天御中主命で、聖武天皇の勅願で、高瀬川のほとりに祀られたとされています。

天正年間（1573～92）に織田・三好の兵火で社殿は焼失しましたが、その後再建され、現在の社殿は江戸時代中期頃に建てられたものです。江戸時代には、八幡宮とも呼ばれていました。

式内高瀬神社

34 常稱寺
Joshoji (Temple)

常稱寺は浄土宗知恩院の末寺ですが、かつては高瀬山華厳院常稱寺と称し、華厳宗高瀬寺の奥院と伝えられています。この寺は二巻の縁起を蔵し、一つは常稱寺の縁起、もう一つは寺に伝わる舎利の由緒を記録しています。常稱寺の縁起は『河洲茨田郡十七ヶ所之内小高瀬郷一本寺高瀬山華厳院常稱寺縁起』と称し、行基開創になる高瀬寺の縁起（室町時代の公卿三条西実隆日記『実隆公記』から）を録しています。舎利記は『華厳院常稱寺舎利記』と題し、舎利の来歴と感応のことを記しており、共に奥書から元和4年（1618）のもので、江戸時代初期の資料として貴重です。

常稱寺舎利記

常稱寺山門

35 護念寺
Gonenji (Temple)

護念寺は浄土真宗大谷派の寺院で、「世木御堂」とよばれています。実悟上人は永禄8年（1565）にこの世木の地に元加賀国石川郡の若松本泉寺を再興しました。その本泉寺が文禄3年（1594）に大坂天満に移転することになり、この地の寺院は本泉寺の掛所として護念寺と改称しました。

護念寺山門

36 光明寺（存覚上人旧跡）
Komyoji, Zonkaku-Shonin-Kyuseki (Temple)

光明寺は行基創建の高瀬寺塔頭の後裔とも伝えられる寺院です。その後、南北朝時代に、浄土真宗本願寺三世宗主覚如上人の長男（親鸞上人の曾孫）存覚上人が、観応元年（1350）に当地方を教化したとき、廃寺同様になっていた光明寺を再興し、教えを広めました。このことから当寺は北河内地方で最古の浄土真宗寺院でもあります。

光明寺山門

存覚上人旧跡碑

37 大枝神社
Oedajinja (Shrine)

祭神は誉田別尊（応神天皇）で、境内には末社の高吉稲荷神、ならびに東照大権現が祀られています。創建年代は不明ですが、境内の燈籠には元禄16年（1703）と文政8年（1825）、石鳥居は正徳3年（1713）、狛犬は文化2年（1805）、常夜燈は文化10年（1813）の紀年銘があり、江戸時代中期にはすでに存在していたとみられています。境内の大クスも見事です。

大枝神社

38 市杵島神社
Ichikijimajinja (Shrine)

橋波西之町の北西部、唯稱寺の北側に鎮座しています。祭神は市杵島姫命、民家に挟まれた細い参道の先に境内地があり、地元では「弁天さん」と呼ばれています。

市杵島姫は宗像三女神の一柱で、皇孫邇邇芸命を養育したことから、子供の守護神として崇敬されています。のちの神仏習合では弁財天とされました。

市杵島神社

39 天乃神社
Amanojinja (Shrine)

祭神は素戔嗚尊・誉田別尊・菅原道真公であり、天乃は天農とも書かれ、江戸時代には天神社・天神宮と呼ばれていました。寛文10年（1670）に当地方を領有していた竹内門主親王によって、祭神である菅原道真公の木像を授けられ、社殿を改築したとされています。

現本殿内に安置されている旧本殿は、柿葺一間社春日造で、向拝に蟇股2箇を並べた類例のない形式で、江戸時代初期を下らない特徴がよく示されている貴重な建造物です。

天乃神社

天乃神社旧本殿

40 産須那神社
Ubusunajinja (Shrine)

旧北寺方村、南寺方村、焼野村三村の氏神で、菅原道真を祭神としています。文禄3年（1594）の検地では境内が「除地」（年貢免除の土地）になっており、そのころには既に存在していたとみられます。

元和元年（1615）、大坂夏の陣で焼失しましたが、寛永元年（1624）には再建、寛延2年（1749）にも再建され、その際、五条家より寄せられた道真像を祀っていました。境内には延享～宝暦年間（1744～64）の燈籠などが残っています。

産須那神社

社殿と大クス

41 唯稱寺
Yuishoji (Temple)

浄土真宗大谷派で、本尊の阿弥陀如来立像は室町時代末期～江戸時代初期の彫像とみられ、市内の真宗寺院では最も早く木仏の本尊を安置した寺の一つといわれています。現本堂の建立は、寛政7年（1795）寄進の喚鐘の事を記した木札があることなどから、この時期をあまり遡らない頃と推定されています。当初は藁葺の屋根で外観が民家と変わらない集会所的な建物でしたが、恵明の時代に至り（19世紀中頃）上位の真宗寺院内陣正面の構えを取り入れ、真宗の本堂としての形に整えられました。この本堂は18世紀後半頃の新しい建築とはいえ、農民に密着した村道場の古い形態を残した貴重な建物です。

唯稱寺本堂

阿弥陀如来立像

42 喜左衛門記念碑・伝和泉式部供養塔
Kizaemon Monument&Den IzumiShikibu Memorial Tower

旧寺方荘など12ヵ村一帯は排水が悪く、村民は悪水に悩まされていました。村民は樋を設けることを幕府に願い出ましたが、認められず、南寺方村庄屋喜左衛門は寛永11年（1634）に意を決して樋を築き、水害を一掃しました。樋はそのまま置かれましたが、喜左衛門は幕府を無視したとして翌年3月15日に処刑されました。明治15年（1882）、12ヵ村の人たちは喜左衛門を慕ってこの碑を建てました。

喜左衛門記念碑の右にある宝篋印塔は、和泉式部の供養塔と伝えられているものですが、台座に康永3年（1344）願主妙弥道延の銘が彫られており、南北朝時代のものです。

喜左衛門記念碑

伝和泉式部供養塔

43 寺方提灯踊り
Terakata Chochin-Odori

寺方提灯踊りは本市を代表する郷土芸能です。かつてこの踊りは一子相伝で、ひそかに引き継がれてきました。文化・文政の頃（1804～30）から盛んとなり、河内音頭寺方節にあわせ太鼓を使ったはやしと、片手に提灯をもった独特な踊りは、他に類のないもので、平成12年に市の無形民俗文化財に指定しました。この提灯踊りを後世に伝えるため、地元の「寺方提灯踊保存会」により、毎年7月に守口市駅前において踊り継がれています。

寺方提灯踊り

44 遺跡
Relics

ア 大庭北遺跡（佐太東町2丁目・金田町2丁目周辺）

古墳時代から中世に至る複合遺跡で、6世紀後半と考えられる古墳をはじめ、平安時代後期の掘立柱建物、鎌倉時代の井戸、溝、里道が発見されています。「美濃」の刻印をもつ須恵器は、岐阜県美濃須恵古窯産のもので、大阪府下では初めての出土例として、また「正和四年」（1315）の年号をもつ木簡は花押のあるものとしては国内で最古の例として、それぞれ注目されました。

「美濃」刻印須恵器

「正和四年」木簡

（木簡の写真は大阪府教育委員会提供）

イ 八雲遺跡（八雲北町1・2丁目周辺）

淀川左岸に位置する縄文時代～近世に至る複合遺跡で、縄文時代晩期の滋賀里式土器、奈良時代の人面墨描土器、岡山県万富窯で焼かれた「東大寺」刻印入り瓦、近世のくらわんか茶碗など多数の遺物が出土しています。また、昭和62年の発掘調査の結果、畿内地域で初めての弥生時代の玉作り工房と考えられる建物跡が発見され、佐渡や北陸地方から運ばれてきたと考えられる鉄石英やメノウの石材や、石ノミ、細石刃、細石核等珍しい遺物が多数出土しています。